

筑波大生の快挙続く

自転車W杯 箱根駅伝 梶原世界一 相馬出場へ



スタートする梶原選手(12月2日、ミルトン) = 本人提供

自転車競技の世界大会UCIトラックワールドカップ第3戦が12月1-3日(ミルトン)...

箱根駅伝 オムニウムは、トラックレースという自転車競技の中心...

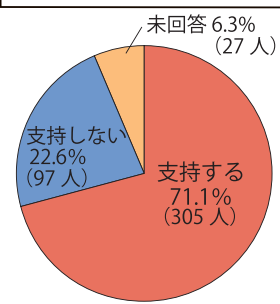
「鐘ヶ江の記録目指す」 東生連合チーム候補者16人のうち総合5位に入...

相馬選手は10月14日の箱根駅伝で、5899人中69位に入...

筑波大生の箱根伝出場は、2004年に時の日本学生選抜チームとして往路で出場した...

本戦で相馬選手は標高差800メートル以上を駆け上る過酷なコース...

安倍内閣を支持するか



アンケートは学内10授業で実施。その結果、投票しなかったと回答した学生が22.6%...

内閣支持実績を評価

「安倍内閣」の支持率は、71.1%と高い。その理由として、政治への関心...

本紙アンケート

筑波大生の内閣支持7割超

衆院選の投票率は5割

10月22日開票の衆院選について、本紙は11月中旬、筑波大生ら300人(アンケート)調査を実施した...

大学生と政治

一方、比例代表の投票先は、自民党が最多の96人(48.7%)で、以下立憲民主党18人(9.0%)...

不法投棄続く

筑波大学の平政、追越の矢の各学生宿舎付近で、粗大ゴミの不法投棄が続く...



不法投棄続く

不法投棄は、粗大ゴミの不法投棄が続く。また、粗大ゴミの不法投棄は、粗大ゴミの不法投棄が続く...

本紙が張り込みを行った粗大ゴミの不法投棄現場。粗大ゴミの不法投棄は、粗大ゴミの不法投棄が続く...

筑波大学新聞 logo and masthead information.

Publication details: 第339号, 編集責任 筑波大学新聞, 編集代表 藤原直樹, TEL: 029(853)6699, E-mail: shinbu@un.tsukuba.ac.jp, 発行所 筑波大学 茨城県つくば市天王台1-1-1

Table of contents: 性的少数者対応が最高評価 2, ダンス部 公演で魅了 5, バレー 男女準優勝 8, サッカー リーグ優勝 9, 雙峰祭 多彩な企画 10, ミニ特集 約6200人を調査 自転車交通違反多発 特集 学生・教員の座談会開催 筑波大生と衆院選 3, 6, 7, 11

イオンつくば駅前店



イオンつくば駅前店(12月2日、つくば市吾妻) = 秋田耕平撮影

つくば駅前にある「イオンつくば駅前店」が来月11月末までに閉店する...

イオンつくば駅前店

つくば駅前にある「イオンつくば駅前店」が来月11月末までに閉店する...

同店は国際科学技術博覧会(つくば科学万博)開催を機に、商業移転・統合する...

来年2月末までに閉店へ

つくば駅前にある「イオンつくば駅前店」が来月11月末までに閉店する...

筑波おもしろ 二億総活躍社会へ実現に向けて、生能の学力向上につなげる...

ダンスで交流図る

7団体が多様な作品披露

筑波大学ダンス部が主催するダンスイベント「Dance Express Vol.12」が、11月15日に中央体育館で開かれ、同部や筑波大の舞踊サークル、つくば市のダンスチームなど計7団体が作品披露した。

公演は3部構成。第一部は同部の佐藤本菜(1)体



猿の格好をして踊るダンス部(11月15日、中央体育館) = 同部提供

客席に回って観客に拍手や掛け声を求める場面もあり、会場全体を盛り上げた。続いてダンス部が「進化」と題し、猿の格好をした部員らがセットの岩に登り、手を叩くなど猿特有の動きを取り入れたダンスを披露した。途中、猿の格好をした部員が洋装を着て猿から猿へ「進化」する。進化した現代人は携帯電話を見ながら踊り、作

品を最後に岩から降り、進化しただけの猿に戻り、危険性を表現した。ダンス部主催の早稲南美さん(同3年)は公演を終えて「今回初めて大団に映像を取り入れ、作品への没入感を高めた。次回も期待してほしい」と話した。

ダンス部は、来年3月17日に自主公演を行う予定で、橋野明奈(1)日本語・日本文芸専攻3年、飯田健介(1)社会学専攻1年)が

「神様の通り道」では、無数の垂れ下がったペンキ色のストッキングと、それを着た目で裸の少女が描かれていた。人の匂いが染み付いた衣類に惹かれる「純粋」と、惹かれるあまり盗み犯す「欲」の境界を表現した。菅澤さんは過去に洗濯物が乾かされた経験があり、作品に洗濯物が頻りに登場する。菅澤さんは「見てくれた人が何か言葉にできない違和感を感じ取ってもらえたらいい」と話した。

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

術2年)の「おみくじ100」。台座式のおみくじを再現し、欲を表現した。菅澤さんは「おみくじ100」の環境を再現し、実際に来場者が体験できる。両端の片面が赤く塗られた木の棒を同時に投げ、そのすべてが赤い面を向いたときに、箱から1から100までの番号が書いてある札を引く。そして、その札書いてある番号のおみくじを取っていくというのだ。

しかし、引いたおみくじには必ずなる和歌とほ書きが書いてない。日高さんは「おみくじに書かれた答えの捉え方が人によって違ってくる」と話した。

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

大学院生の力作展示

筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻博士後期課程の学生の作品展「第14回DCE」が11月14日(日)、博士前期課程後期専攻の学生作品展として、第33回MOC展(11月21-26日)で、美術部(つくば市喜多)が開催された。

学生16人が制作した絵画、彫刻など全55点の展示が、彫刻を全55点の展示として常駐する彫造と、熱心に鑑賞していた。

学生34人が制作した洋画や版画など全56点の展示が、彫刻を全55点の展示として常駐する彫造と、熱心に鑑賞していた。

学生34人が制作した洋画や版画など全56点の展示が、彫刻を全55点の展示として常駐する彫造と、熱心に鑑賞していた。

学生34人が制作した洋画や版画など全56点の展示が、彫刻を全55点の展示として常駐する彫造と、熱心に鑑賞していた。

学生34人が制作した洋画や版画など全56点の展示が、彫刻を全55点の展示として常駐する彫造と、熱心に鑑賞していた。

管弦楽団 木管アンサンブル

美しい音色で会場包む

管弦楽団の木管アンサンブルが11月19日(アルスホール)つくば市喜多で行われた。3部構成で11曲が演奏され、来場者は木管楽器の美しい音色を堪能した。

アンサンブルは「調和」を意味するフランス語で、音楽用語としては入声の少数数の合奏を意味する。同演奏会では、フルート、オボエ、ファゴット、クラリネットの4つの木管楽器にホルンを加えた木管五重奏など、さまざまな楽曲が演奏された。



息のあった演奏を聴かせる団員ら(11月19日、アルスホール) = 益本健太撮影

ネット五重奏曲は、バイオリン4つの演奏にクラリネットを加え、美しい編成の曲。暗い響きの短調だが、クラリネットの柔らかな音色で、どこか温かさも感じる不思議な曲調だ。はじめに弦楽器の主題を奏ると、それ迫るようにクラリネットの旋律が

重なる。次第でそれらが混ざり合い、美しい調子が生まれ、観客を魅了した。

第二部で演奏されたヘートベン作曲「Petit Suite」やストラヴィンスキーの組曲「バレエ組曲」など4曲を演奏。「フルネーム」は、イタリアの仮面劇を基にした劇のバレエ作品のため、ベルゴネッティが作った組曲で、ストロビンスキーが編曲したもの。木管五重奏でアレンジして演奏し、来場した男子学生は「表情のある優しい音で、木管楽器の魅力に触れられた」と話した。(記者 水真理生)

学内で演劇体験

演じる楽しさと学ぶ。劇団SON-TBOOMが主催する「えんきゅうほりワクショウ」が11月19日(UE棟)で行われた。演劇の魅力や体験することを目的としたイベントで、演劇経験の有無を問わず学内外から参加者が集まった。参加者は初対面ながらも打ち解けた様子で、イベント前半はラジオ目録紹介のほか、リスニング判断力などの演技に必要な能力を養うゲームが行われた。ルールは簡単なが、喋りながら同時に使うため参加者が苦戦する場面も見られた。また、後半には実際に役

振りを付けて演劇を行った。与えられた台本を基に演じて、参加者は思いのほかに楽しかった。

企画者の長部世菜さん(比文1年)は「台本に書かれた他人の状況や言葉を取り、自分の感情や感覚を表現する演劇の面白さを伝えたかった」と話した。

演劇初心者にとっても参加者の女性には「初めてのワークショップで不安だったけれど、体が動かせた声を出すと打ち解けた。今後、自分の演技に役立てたい」と話した。(中村 瑞歩)

絶対音感 は休まず。

松井豊 教授(社会心理学)

人間系・教授。文学博士(東京都立大学)。東横学園女子短期大学講師。東京都立川短期大学講師。聖心女子大学助教を経て、2005年より現職。

私は社会心理学という領域で、対人関係や修繕ストレスなどの研究を続けています。修繕ストレスとは、修繕活動したり修繕を自覚した人が、活動中や活動後に体験する外傷性ストレスを意味します。私は防衛職員や看護師などの修繕ストレスの研究とケア(危機介入)を行っています。

この活動の原動力は、半世紀前の前の中年代の授業にあります。山口先生(当時)が、体動かした声を出すと打ち解けた。今後、自分の演技に役立てたい」と話した。(中村 瑞歩)

原点

ケア活動でこころの回復を支援

「ケア活動でこころの回復を支援」という方が建立したことが分りました。この石碑は「治水大成碑」という碑で、現存しています。この石碑には「此ノ石碑ノ完成ニタリ、大ニル機性下野トテ、多シタル我等ノ仲野ノ記憶センカニ、二神武天皇紀元二千五百八十年、荒川改修工事ニ従ヘル者ニ依テ、こたげ記されし、水門が完成した大正年間、工事を完了した責任者の方が立てた碑です。通常の石碑では、建立した方の名前が記されていますが、この碑にはそれがありません。

11月24日の雨に降られていた中、雨の降った人がいなくなる。あの雨は時雨という名前が付いている。もじ目語ではななつて冬に感じるがあるが、秋から冬にかけて見られる雨のことは、日本海側から来る雲は途中、山におつかるので、関東の時雨といふのは、冬に降る。関東の時雨は田舎時雨である。と言った京都の俳人もいます。

(堀下翔) 筑波文化学専攻4年

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

俳句 筑波大 「時雨」

小さき蜂まはりてゐる時雨かな 夕星の如くに薄く時雨見ゆ

筑波大 時雨の頃も柿百く

11月24日の雨に降られていた中、雨の降った人がいなくなる。あの雨は時雨という名前が付いている。もじ目語ではななつて冬に感じるがあるが、秋から冬にかけて見られる雨のことは、日本海側から来る雲は途中、山におつかるので、関東の時雨といふのは、冬に降る。関東の時雨は田舎時雨である。と言った京都の俳人もいます。

(堀下翔) 筑波文化学専攻4年

「おみくじ100」を楽しむ来場者(11月22日、つくば美術館)で

座談会「積極的に選挙参加を」



「今の学生は経済政策など現実的な問題に興味を持っていることが分かり、興味深い」と話す辻中教授(右)

筑波大生は政治に関心しているのか。現代日本政治や市民社会を研究する辻中豊教授(社会学)を迎え、河野卓哉さん(文学部)、石飛哲平さん(大場優志さん(社会学一年)、相さくさん(社会学一年)の4人の学生と座談会を行った。(中図書館 上末真理撮影)

「不在者投票制度の周知を」

① 投票したか

相川 投票しなかった。不在投票も考えたが、手続きが大変で諦めた。石飛 不在者投票をした。だが、一度出身地の市役所に問い合わせた際に「担当者の勘違いでできない」と言われるのを手間取った。

「経済政策などに興味」

② 重視した政策

辻中教授 市民投票を移すのは国民の義務という考えがある。しかし、衆議院選は地域の代表ではなく、国民の代表を選ぶものなので、通過すれば、政治の流れが変わるのではないかと。河野 高等教育や外交政策も重視した。不安な要素が多いので安定している政策が多いという思いがある。

③ 選挙結果について

相川 学生は気が、雇用対策に関心がある。景気が上昇している現在、自民党を支持する声はきかかったと思う。石飛 報道では、税金の使い道、現政権が非難されている。だが、(自分は)税金をあまり払っていないので美感がなく、(現政権)を支持する理由にならない。経済も回復しているのだから、政権交代して不安定になる必要があると感じる。

「現政権支持は普通」

「野党は努力が必要」

■ 視点



「各政党の公約が実行されるか不安」と話す河野さん(左)ら

④ 今の政治に望むこと

石飛 不在者投票制度を改善するなど、誰かが投票しやすい環境づくりを期待する。河野 各政党の公約を見ても、結局実行されるのか不安で選んでいない。大場 野党が自民党を批判するばかりで政策が見えない。相川 自民党の独走のようだが、野党ももっと頑張ってもらいたい。辻中教授 今回衆院選



粉川美踏助教

「おいしい」とはどのような感情なのか。個人差はあるのだろうか、それが味そのものだけでなく、匂いや食感を多く含む要因に影響するのは間違いない。

「おいしさ」追求し明るい食卓へ

食品の成分や食感を可視化

粉川美踏助教は、食感や味覚の「おいしさ」を追求し、食品の成分や食感を可視化する研究を行っている。現在は、味や香気、食品の五感に関する「食感」を検査し、多くを蓄積している。だが、感覚は個人差があるうえ、疲労などで測定結果が変わる場合がある。食感検査のほかに、目的とする成分を抽出して化学分析を行うこともできるが、この場合、商品からサンプルを抜き出して測定する必要がある。

今回の調査では、約半数の学生が、比例代表自民党に投票し、筑波大生の自民党支持が改めて浮き彫りとなった。だがその理由として「他にない」という野党がない、を挙げた学生も多かった。この原因の一つとして、比例代表では自民党の票は野党全体の票の約半数に満たない。また、自民党は「憲法改正の国民投票で」と(今後)政治が大きく変わる可能性もある。このような局面で、若者は昔めずると政治に関心を持っていると感じている。自由民主主義の国は世界の国の3分の1程度で、日本のように自由投票で安定を求めるのはそのため。若者が政権選択に不安を求めるのはそのため。私自身、若者は変化を恐るべきではない。若者は積極的に選挙に参加してほしい。

催事

Do-oo-Wop冬ミニイブ

24日(土)にはオールド(市庁舎)で開催される。午後5時30分開場、午後6時開演、午後8時30分終了。筑波大学アカペラサークルDo-oo-Wopの公演。サークル内のオーディションを勝ち抜いたバンドによるアカペラライブ。入場は無料。問い合わせ: email: do-oo-wop@wininive.com 筑波大学アカペラサークルDo-oo-Wop Twitter: do-oo-wop

安定求め自民支持

◆おとわの 卒業生からの手紙は休ませます。

